



学生が描く理想社会

産官、政界の女性交え

APUで授業

【別府】「自殺ゼロ」「育休が取りやすい」「外国人労働者への差別がない」……。別府市の立命館アジア太平洋大（APU）で4日夜、2050年の理想社会を産官、政界の女性ゲストと一緒に考えるユニークな授業があった。学生は社会人との意見交換に刺激を受けながら、卒業後の自身の活躍にも思いをはせた。

サステイナビリティ観光 ラック企業がない」「子ども学部の学びの一環で、1年もも大人も自由に意見できるら200人以上が参加した。化粧品「ポーラ」（東京都）の及川美紀社長、国連広報センター（同）の根本かおる所長のほか、地元選出の参院議員、自治体議員ら各界の女性を招待した。

論理やデータではなく、直感から発想する思考法を採用。6人程度で囲んだテーブルに大きな紙を広げ、中央に私たちの望む未来」と書いてスタートした。ブ

「海にマイクロプラスチックがなくていい」など幅広い社会課題に目配りした書き込みで埋まった。

授業は日出町藤原でレジヤール施設「ハーモニーランド」を運営するサンリオエンターテイメント（東京都）との共催。指導した須藤智徳教授と同社のつながりがきっかけで22年に始まり、今回が3回目だった。書き込みは提言などにまとめるわけではなく、自由



紙に書き出した理想の社会像を基に、意見を交わす学生ら＝4日夜、別府市の立命館アジア太平洋大

な話し合いでイメージを広げた体験そのものを学習の成果と捉えるという。

（中谷悠人）

同学部1年の馬淵希果さん(18)は「全ての子どもが夢を持てる社会に、という自分の中のイメージが会話を通して広がっていった。その感じが楽しかった」と感想。「世界平和の実現に役立ちたい。カメラマンやファッションなどの仕事が候補です」と話した。

〔問①〕 別府市の大学「APU」の正式名称は？

立命館アジア太平洋大学

〔問②〕 採用された思考法は、どのようなものですか？

論理やデータではなく、直感から発想する

〔問③〕 あなたが考える2050年の理想社会は？ 記事で紹介された思考法でグループでやってみよう。

グループチャレンジ